

会 議 録				
平成25年度第1回 社会教育委員の会議	日 時	平成25年4月17日(水) 午前10時00分～11時30分	場 所	小金井市第二庁舎 8階801会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出 席 者	委 員	本川議長、伊藤副議長、小林、佐野、樹、中村、本多、松田 各委員		
	その他 事務局	欠席 倉持、田尻 各委員 西田生涯学習部長、天野生涯学習課長、尾崎国体推進担当課長、 大関公民館長、上石図書館長補佐 伊東生涯学習係主事		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
教育長挨拶				
1. 協議事項				
(1) 平成25年度スポーツ関係団体への補助金交付について				
(2) その他				
2. 報告事項				
(1) 都市社連協定期総会について				
(2) 平成25年度予算概要について				
(3) 平成25年第1回市議会報告				
(4) 全国大会参加団体への補助金交付について				
(5) 文化財センター企画展について				
(6) その他				
教育長挨拶及び人事異動について				
(本川議長)				
ただいまより平成25年度第1回社会教育委員の会議を開催させていただく。それでは教育長の挨拶に先立ち、職員の紹介を先にさせていただく。				
(西田生涯学習部長)				
それでは、議長の許しを得たので、事務局から発言させていただく。				
まず、4月1日付で生涯学習部の管理職の異動があったので報告させていただく。3月31日付で図書館長が定年退職したことに伴い、生涯学習部長兼図書館長事務取扱として、私、西田剛が拝命した。新たに設けられた図書館長補佐の職に、前図書館奉仕係長の上石弘美が昇任、昇格の上、配置された。また、尾崎充男国体推進担当課長については、任期付職員として採用の上、引き続き、その任に当たることになった。				
また、事務局にも異動があった。前生涯学習係の林健太郎が異動になり、新たに伊東明が、新卒であるが、配属されたので、紹介申し上げる。以上である。本年度もよろしく願います。				

(本川議長)

少ない人数で、いろいろ大変なことであろうが、どうぞ社会教育委員の会議事務局としてよろしく願います。それでは、教育長の挨拶を頂戴する。

(津幡教育長)

皆さん、おはよう。写真撮影も行い、さわやかな雰囲気の中で再開できることを大変うれしく思っている。25年度第1回目の社会教育委員の会議ということで、一言挨拶させていただくが、25年度は教育委員会、たくさんの課題があるが、特に社会教育関係で幾つか申し上げると、まず、市民の長年の念願であった貫井北町地域センターの開設は26年4月1日をめどにということで、今年度が正念場であり、一番の詰めが必要な状況になっているかなと思っている。

そして、数年にわたって取り組んできたスポーツ祭東京2013は、9月末から10月が本大会ということになる。大会そのものの内容もさることながら、それに向けて、市として、市民として、市民運動としてどういう取り組みができるかということが問われている事業である。いろんな周辺の関連事業も充実させてきているところだが、これについても本腰を入れてやっていかねばならないと思っている。

また生涯学習に関連して、生涯学習の推進計画も含め、生涯学習の計画と本市の長期計画との時期の整合の問題や、学校教育を中心とした「明日の小金井教育プラン」との整合性について、今後配慮をしながら進めていかねばならない状況になっている。その他、市内の社会教育施設も老朽化等が見られ、これについても抜本的な改修も含め、考えていかねばならない。

先ほど、紹介があったように、事務局の異動が若干あり、西田部長が図書館長兼務ということで、少ない人数の中でいかに効率的な仕事をしていくという厳しい状況があるが、ぜひご理解いただきたい。

以上である。よろしく願います。済まないが、ここで失礼する。ありがとう。

(本川議長)

ありがとう。今、教育長から話が出ていたが、スポーツ祭東京については、社会教育委員としては、実行委員ということで私が出させていただいている関係でボランティアを募集しているようだが、どんなにかかわりができるのかというようなことでお教えいただければと思う。

それから、小委員会について今期では残すところあと2回なので、あまり細かいことはできないと思うが、次期につなげられるようなことができるかと思っているので、よろしく願いたいと思う。

1. 協議事項

(1)平成25年度スポーツ関係団体への補助金交付について。

(天野生涯学習課長)

A 4 横使い、「平成 2 5 年度スポーツ関係団体への補助金交付額(内訳と昨年度との比較)」という資料をごらんいただきたいと思う。

平成 2 5 年度スポーツ関係団体への補助金交付について、協議をお願いしたいと思う。小金井市では毎年度、小金井市体育協会と総合型地域スポーツクラブである黄金井倶楽部の 2 団体に対して補助金を交付している。それぞれの団体への補助金交付要綱に基づき交付しているものであり、団体の運営経費の一部を補助することにより、スポーツ振興を図ることを目的としているものである。

補助対象となるのは、団体の管理運営にかかる事務費と各種スポーツ事業の開催、運営等に要する事業費となっている。各団体からの交付申請にかかる書類を審査した上で交付額を決定している。本補助金は毎年度行っているものだが、補助内容を変更する場合には、補助金検討委員会による審査も行っている。各団体の交付金額は、本日配付させていただいた資料のとおりである。

なお、補助金を交付するに当たり、社会教育法第 1 3 条、社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ社会教育委員の会議の意見を聞いて行わなければならないという旨の規定があることから、本日、この場で皆様の意見を聞かせていただくよう、願います。

(本川議長)

ありがとう。この提案について何か意見、質問あるか。

(中村委員)

小金井市体育協会の事務費補助の欄で、2 4 年度に比べて、増減が 2 7 万 2, 0 0 0 円、人件費補助とあるがこの理由について教えてほしい。

(天野生涯学習課長)

これは、こちらの職員が非常勤職員か正規職員かという形によって変わってくるが昨年、産休で代替の職員がいた関係で臨時職員であったのが、今年度から正規職員にかわるということで、その分の増額である。

(中村委員)

ありがとう。

(本川議長)

ほかに質問がなければ、補助金交付について、異議なしということで皆よろしいか。

(「異議なし」の声あり)

(本川議長)

それでは、次に移らせていただく。「その他」と書いておるが、小委員会での報告を兼ねて、三者で検討している生涯学習支援センター創設についてということで、伊藤副議長から報告いただきたいと思う。別紙で配られている、新しい提言

の案を検討委員会で揉んだ。社会教育委員の会議の案ということで検討いただければと思う。よろしく願います。

(伊藤副議長)

では、私から先月の小委員会での話し合いの結果を、今配ったこの資料を用いながら報告する。表題が、「小金井市生涯学習支援センターの創設に向けて(提言)【案】」というものである。三者の検討委員会で何回も話し合いが持たれて、その結果を踏まえて、さらに先日の小委員会で話し合いを経て、検討委員会ではこのような形になったことを報告させていただく。では、読み上げる。(以下、省略)

今後、もう一度、5月15日にまた、このことについて意見があれば本会議があるので、このことについて意見を出していただいて、話をさせていただきたいと思う。

一応、流れとしては、5月29日の三者懇談会の日はこの案について諮る。また各委員会、審議会等からいろんな意見があろうかと思う。できれば、その結果を踏まえて、7月17日、さらに社会教育委員の会議がある。7月19日は図書館の協議会がある。さらに7月26日は公運審の会議があるので、その場で最終的な結論を出していただき、できれば7月末までには三者の代表者にお越しいただき、教育長に渡したいというのが全体の流れである。

(本川議長)

ありがとう。検討委員会は自主的な会議であり、過去6回開かせていただいた。皆さん、大変熱心に検討いただいて、ここまでまとまってきた。5月29日の懇談会にみんなで検討して、それを各会に持ち帰り、再確認していただくという作業をお願いする。

そこで何かあったときにはどうするかということはまだ考えてないが、精査されて、代表者の方が皆さん、一応これでというようなことになっているので、あまり大きな問題は出ないというふうに考えている。それで、図書館、公民館の並びについてだが、行政ではこの並び方が正しいということで。要するに、あいうえお順とかABC順と同じような意味合いということであるので、それに従った。

あと、もし、文言のことで何か気になるようなことがあったら、後ほどご意見を伺わせていただきたいと思いますと思うので、どうぞよろしく願います。

今の点について、何か質問あるか。とりあえず5月29日にこれを持っていくということについて、特に反対の方はいないか。いないようであれば、そのようにさせていただきます。

(本多委員)

このたたき台は、図書館の松尾先生が準備してくれ、あまりにもシンプルかなとも思ったが、要望と提言の話だが、最初、要望だった。要望書ということで、前はまとめ、今回、要望という形だったが、いろいろアドバイスをもらい、提

言のほうがよりよいということになったので、提言ということにさせてもらった。そのうち、諮問がかかってくるのではないかと思って、期待している、何年か後かわからないが。

(本川議長)

ありがとう。では、ぜひよろしく願います。特になければ、とりあえず今日のところはこれでいいということにさせていただきます。

2. 報告事項

(1) 都市社連協定期総会について

次に、報告事項に移らせていただく。都市社連協定期総会についてということでは皆様のところに事前に、出られない方は連絡くださいということにはなっていると思うが、皆様出席いただけるか。大丈夫か。事前に倉持委員と田尻委員は欠席すると伺っているが。

(樹委員)

今回は都合が悪いので、欠席させて頂く。

(本川議長)

あと、ほかの方は大丈夫か。

(「参加できる」との声あり)

(本川議長)

事務局は2人でよろしいか。

(天野生涯学習課長)

事務局は私と伊東の2人で参加する。

(本川議長)

それでは9名が参加するというところでよろしいか。田尻委員と倉持委員の委任状はどうなっているか。

(天野生涯学習課長)

まだいただいてない。

(本川議長)

では、田尻委員と倉持委員の委任状を、定期総会までに揃えるよう、事務局は2人に働きかけてほしい。

それから、皆さんのところに議案書はいつているか。これは前回、当日配付だったので、第5ブロックが申し入れた結果、事前に配られることとなった。各自目を通しておいてもらいたい。

(2) 平成25年度予算概要について

それでは、次に移らせていただく。平成25年度予算概要についてということである。西田部長、願います。

(西田生涯学習部長)

報告事項の(2)になる。平成25年度予算概要についてである。それでは、25年度予算概要について報告させていただく。平成25年度の予算は、第3次行財政改革大綱に沿った行財政運営、資源の選択と集中、情報の見える化による市民協働、官民連携等を基軸として、危機的な財政状況という認識のもとに編成された。こうした中、市全体の予算規模は約577億円と、対前年度比約9億円の増となっている。

歳出について概要を報告させていただくが、教育費全体では42億2247万5,000円、対前年度比約7.4億の増となっている。増の主な要因は社会教育費であり、つまり子ども関係であり、社会教育費全体で13億6354万6,000円。対前年度比7.2億円の増である。先ほど、7.4億円の増が教育費全体だったので、9割以上、子ども社会教育費の中で増がされている。保健体育費で4億4,113万2,000円、対前年度比約0.8億円の増となった。これらの内訳も非常にわかりやすく、主に、(仮称)貫井北町地域センター建設工事に約6.9億円、スポーツ祭東京2013の事業費に約0.8億円の増によるものということで、増えたものについては、教育費で増加したものは、主に貫井北町地域センターの建設工事とスポーツ祭東京2013事業費の増加によるものという形でご理解いただければと思う。手元の資料にある、生涯学習課、図書館、公民館における、それぞれの主な事業の新規とか、そういったものを抽出したものについては手元に配っているので、後で参照いただければと思う。以上である。

(本川議長)

何か質問あるか。

(佐野委員)

予算の概要のところで、ジュニアバスケットボール教室運営委託費、200万。財源内訳のところに、その他と載っているが、これはどこからか補助金か何かが出ているのか。

(西田生涯学習部長)

多摩島しよという補助金のようなものがあり、それで全額補てんされるということである。

(佐野委員)

すごい大きな金額である。

(西田生涯学習部長)

我々にとっては非常に大きな金額をもらった。

(天野生涯学習課長)

こちら、事業年度が3年間限定のものになっていて、本来だと平成26年度まで対象にはなるが、今回、バスケットボールを選んだ理由というのが、国体でバ

スケートボール競技があるということもあり、その機運醸成も兼ねてということで、一応、今のところは今年度限りということで予定している。

(佐野委員)

わかった。ありがとう。

(本川議長)

ほかに何か。予算が増えたというと、何となく生涯学習に日が当たるのかなんていう気がするが。

(西田生涯学習部長)

新規事業について、必要な金額がついているというだけ。光が当たって、いろんな新規事業を認めてもらったというのとはちょっと違う。先ほど、概要で説明したとおりである。全て、貫井北町地域センターの建設工事とスポーツ祭東京2013の事業費、これに尽きてしまうという。

(本川議長)

最初は何となくそういう気がしたが、細かく伺うと、そういうことか。

(西田生涯学習部長)

必要などころに必要なだけ。やはり危機的な財政状況ということで、必要なものには出すけれども、そのほかはやはり見直しをかけてくれというのが、これは生涯学習の分野についても全く同じことが言える。

(本川議長)

まだまだ厳しい状況が続くのかと思う。

(佐野委員)

このジュニアバスケットの委託先というのはどこなのか。

(天野生涯学習課長)

委託先はまだ未定だが、プロバスケットボールチーム、サンレーヴスというところから教えていただくことを考えている。

(西田生涯学習部長)

プロバスケットチームとの連携ということもあり、そういう中でやっている。

(本川議長)

では、有効に使ってもらえるようにと思う。何か、ほかに質問あるか。なければ、報告事項の3に移らせていただく。

(3)平成25年第1回市議会報告について

(西田生涯学習部長)

これも私から簡単に説明させていただく。平成25年小金井市議会第1回定例会が平成25年1月30日から同年3月7日まで開催された。

まず、一般質問関係だが、生涯学習部関係は2人あった。詳しくは、お手元の資料で、質問の項目と回答要旨を簡単に一覧にしたものを配付させていただいて

いる。報告事項3資料という形で出しているが、公民館関係の質問が2件あったということである。後ほどごらんいただければと思う

それから、厚生文教委員会、3月4日と3月21日に開催されたが、その関係だが、生涯学習部関係では陳情が3件審査されている。いずれも生涯学習課に関するものである。本会議においても3件とも採択という形になった。市長及び教育委員会に送付されることとなっている。陳情3件については、25陳情第1号『名勝小金井桜』の復活へ向けてモデル地区終了後も引き続き小金井市として小金井サクラの植栽事業を継続する決議の陳情書、25陳情第2号玉川上水堤の小金井桜の成長を阻害する木々の伐採を要望する陳情書、及び25陳情第5号JR高架下に小金井市の体育施設を建設していただくことを求める陳情書である。

それと、平成24年度の補正予算第12回である。歳出は社会教育費全体で1,570万4,000円の減、保健体育費で954万3,000円の減で、主に契約差金、謝礼金の残りといった最終補正としてのつじつま合わせというか、整理を行ったものである。

例として、(仮称)貫井北町地域センターの工事費、1000万円の契約差金が出ている。また、スポーツ祭東京2013のリハーサル大会にかかるもので、合計686万5,000円の契約差金などがある。

歳入としては、スポーツ祭東京2013リハーサル大会の大会運営費の歳出減に伴う東京都補助金の減額、343万4,000円があったというのが主なところである。

当初予算については先ほど説明したとおりで、新年度予算は起立多数で可決された。第1回定例会の報告については、雑駁だが以上である。

(本川議長)

何か質問はあるか。

(中村委員)

こちらの報告事項資料の3ページに、森戸議員からの質問、公民館の有料化における検討状況について生涯学習部長がお答えになられたコメントの中で、これ、かなり大きな問題だと。公民館の有料化というのはかなり大きな問題だと思うが、最後のほうにコメントとして、「様々な意見を踏まえながら、第三次行革大綱における計画年度に向けて検討していく」、これは具体的にいつになるのか。

(西田生涯学習部長)

第三次行革では平成26年度ということになっている。ただし、貫井北町の関係等があり、その年度で実際できるのかというのは、まだ不明確なところがあるが、いずれにしても、そういう行革大綱というのは出ているので、こういった検討は、皆さんの意見を聞きながら進めていかなければならないという立場である。

(中村委員)

それで、市役所庁内での方向性というのは、検討されていると、この文面に
あるが、どういう方向性なのか。

(西田生涯学習部長)

やはり、第三次行革における計画年度に向けて、これだけじゃなくて、手数料
だとか、いろいろなもの、いわゆる受益者負担、お金を一定負担していただけない
かというのは全庁的な問題でもあるので、公民館だけがまな板の上に乗っている
ような状況で今出ているが、それ以外にもいろいろ検討しなければならないもの
がたくさんある。そういった中で、庁内としてもどういうふうにやっていくか
というようなことは投げかけてはいる。ただ、具体的な方向性が、現時点で、じ
ゃあ、こうしよう、ああしようという形で出ているわけではない。

(中村委員)

わかった。

(本川議長)

ほかに、何か質問ないか。わからないので教えていただきたいが、陳情書とい
うのがある。採択されるとどうなるのか。

(西田生涯学習部長)

採択されると、基本的には議会意思が、それをやりなさいという。議会全体の
意思として、陳情書に書いてあるとおりに進めなさいということなので、一定の検
討を部局ではしていかなければならないということになる。ただし、ほんとうに
実現できるかどうかというのは別の話である。議会がそういう意思を示したので、
検討はしますという形。ただ、実現できるかどうかは別のこと。

(本川議長)

これは、市に陳情書で、これを建設してほしいというような意味合いであるな。

(西田生涯学習部長)

はい。

(本川議長)

そうすると、市のほうで検討しなければならないということか。

(西田生涯学習部長)

ならないというところまではいかないが、やはり検討をするのが議会と市役所、
行政のあり方としては当然のことなので、一定検討をする必要はあるということ
である。

(本川議長)

検討して、また返事をするということか。

(西田生涯学習部長)

そういうことである。

(本川議長)

出したところに戻すということか。

(西田生涯学習部長)

そうである。こういう検討状況になっているというのは報告する。

(本川議長)

ありがとう。何か、質問あるか。なければ、ありがとう。次に移らせていただく。

(4) 全国大会参加団体への補助金交付について

(天野生涯学習課長)

全国大会参加団体への補助金交付ということで、本来だと、先ほどの協議事項でもあったとおり、補助金を交付するに当たっては、社会教育委員の会議の意見を聞くということになっているが、平成24年度に全国大会に参加した2団体について、申請があったのが平成24年度最終の定例会の後ということもあり、また、平成24年度中に執行しなければならないという中で、臨時会を開催するいとまがなかったため、正副議長に承諾をいただき、資料のとおり交付させていただいたので、報告する。

補助対象経費としては、大会に参加するための旅費、宿泊費とか交通費等、及び大会参加費となっている。補助対象経費の2分の1を限度として、20万円を上限としている。団体からの申請について審査した結果、交付額は資料のとおりとなっているので、確認してほしい。

(本川議長)

ありがとう。東小イレブンサッカークラブ、13万2,000円、リトルシニア野球協会、20万。結果はどうだったのか。

(天野生涯学習課長)

東小イレブンのほうは、こちらは全国32チームが参加している大会で、6位という結果。第19回リトルシニア全国選抜野球大会については、2回戦で敗退という結果になっている。参加チームは48チームということである。

(本川議長)

ありがとう。リトルシニアのほうは、開催場所はどちらか。

(天野生涯学習課長)

大阪である。

(佐野委員)

小金井の駅の改札を出た正面に横断幕が出ていたが、ああいうものは、リトルシニアの組織であそこに出しているのか。

(天野生涯学習課長)

だと思う。私どものほうで特段関与はしてない。

(佐野委員)

そういうものは、この交付額の中には含まれないのか。

(天野生涯学習課長)

そうである。

(本川議長)

他に何か質問あるか。では、次に移らせていただく。

(5)文化財センター企画展について

(天野生涯学習課長)

今回、お手元にポスターを縮小したもの、白黒になってしまったが、配付している。文化財センターで行っている企画展示、「名勝小金井桜」展について報告する。

4月2日から展示を開始しており、5月6日までの開催という形になっている。内容としては、江戸時代から花見の名所として知られた玉川上水の名勝小金井桜の歩みを、錦絵、絵はがき、写真、文献など、多くの資料によってたどるというものである。

場所については、浴恩館公園内の文化財センターである。浴恩館公園では、市の天然記念物に指定されているツツジ群などもあり、間もなく見ごろを迎えるころとなるので、ぜひ一度、足を運んでいただければと思う。以上である。

(本川議長)

ありがとう。何か質問はあるか。

(本多委員)

昨年、こちらをちょうど同じ時期に開催しており、見学に行ったが、ほんとうにすばらしいので、皆さんにお勧めしたいと思う。

(本川議長)

ありがとう。私たちも、できるだけ、こういう生涯学習関係のものには顔を出して、見聞を広めてもらえればと思うので、よろしく願います。

(本多委員)

そこで撮影した写真をまとめたものがあるので、後で見てほしい。

(伊藤副議長)

科学の祭典について、出展がある。我々として出展したい。来月に、実際、皆さんにご覧入れるが、今年も子供が実際に参加して楽しんでいただくようなものをメインに出したいと思う。机3個ぐらいもらえそうなので、何か、ちょっと簡単な、これも自己流だが、エネルギーに使う動力もいろんなものがある。例えば時計だったら、ギアがこうなっている。そんなものを簡単に、いわゆるペーパークラフトでつくって、中が見えるような、仕組みが見えるような、ほんとうにシンプルな紙で、できればそういうものを、動力の型は何種類かあるから、中を見な

がらやってみてくださいというようなものを展示してみようかなと思うが、そのいいアイデアがあれば、皆さんから出していただいて、展示していきたいと思う。

全体でやる子供さん向けのものは、去年と同様に、名称、何ていったらいいのかな。そういうものを、とにかくカラーコピーしてつくりたいと思っているので、皆さんのお手を拝借したい。形を切り抜いていただいて、折り線を入れていただく作業を今年、お願いしたい。一応、つくり上げるのは160組。去年、150ぐらいつくって大変だったので、今年は160。B4の画用紙の関係で、160、80枚の倍。1枚の紙に2個印刷して、2個つくれるようにした。そんな形で、またはっきりしたら、協力お願いして、切り抜きと折り線を入れていただく作業をお願いしたいということで、子供さんに楽しんでいただくものをやりたいと思う。

(本川議長)

科学の祭典は、具体的にまた皆様と一緒にさせていただきたいと思う。

その他のところで、ほかに報告あるか。

(上石図書館長補佐)

図書館長補佐である。はじめまして。4月1日から図書館長補佐になった。よろしく願います。3点ほどある。

お手元に、資料として、「小金井市図書館運営方針改訂版」1冊、あと、「小金井市の図書館 平成23年度版」を1冊置かせていただいた。

それでは小金井市立図書館運営方針（改訂版）についてを報告する。11期の図書館協議会の委員の皆さんに改訂案を諮り、また、今期の12期の図書館協議会委員の皆様の説明を行った。各担当職員による説明は合計5回して、また、平成25年1月8日から2月12日にかけてパブリックコメントを実施し、その結果、2団体4個人からの27件の意見をいただいた。その意見を参考にさせていただき、3月28日の協議会にも諮り、改訂版として了承された。パブリックコメントの結果は、4月1日から各施設に配付し、また、図書館のホームページにも掲載している。

続けて、「小金井市の図書館 平成23年度版」を配付しているので、こちら削除資料が多いが、このような活動をしたという報告である。

続けて、口頭だが、図書館の蔵書点検の結果ということで報告する。図書館では、蔵書資料の的確な把握を行うため、特別休館により、毎年、蔵書点検を実施している。昨年度は本館、西之台会館図書室、移動図書館を2月18日から2月26日、東分室及び緑分室を3月4日から7日にかけて蔵書点検を実施した。貸し出しを含む全蔵書が45万7,952冊であったが、うち貸し出しを除いた全資料を点検した。点検冊数は39万1,032冊で、貸し出しされていないにもかかわらず所在が不明な図書は1,450冊あった。

不明図書率は0.32%で、前回の平成23年度実施の蔵書点検では、不明図書1,366冊で、不明図書率が0.29%だったので、不明図書冊数及び不明図書率は、残念だが若干増えていた。以上、報告する。

(本川議長)

ありがとう。何か質問あるか。

(中村委員)

2点ある。小金井図書館運営方針の改訂版とあるが、この改訂されたところはどこなのか教えてほしい。昔のを把握してないので。

(上石図書館長補佐)

平成元年12月4日に制定した以前の小金井市図書館運営方針という、その古くなったということと、議会等でも要望があり、新しいものに改正しなさいという意見があった。そして、図書館の職員4人で内部検討委員会を設置して、15回にわたり検討した。そして、前期の11期図書館協議会の意見を伺いながら、一度、改訂案というのをつくったが、その後、第12期の図書館協議会委員の改選の時期に重なったので、今後、図書館評価という課題があるが、それにつなげていくために、また、こちらの第12期の図書館協議会の皆様に改訂版の説明を行い、こちらの結果になっている。運営方針の大きな点であるが、今までの運営方針の基本理念に、図書館規則や選書基準、子供読書活動推進計画など網羅されている部分があったが、そういったものをここでは省いて、簡素化した。図書館が理念として実施しなければならないサービスを、市民や図書館の職員がわかるように、わかりやすいように作成し直したものである。方針案に盛り込まれていない蔵書計画、施設計画などは、今後、必要に応じて作成して、この改訂版をもとに作成してまいる予定である。

雑駁だが、大きなところは、施設計画とか選書基準とか子供読書活動推進計画などが載っていないが、簡素化した、非常にわかりやすいものをつくったということがポイントである。

(本川議長)

よろしいか。全面改訂みたいな感じか。

(西田生涯学習部長)

全面改正みたいなものなので、前のをつけて、対照表とかあるとわかりやすかったが、今日、間に合わなかったものだから。

(中村委員)

できれば、そういう資料をつけていただくと。どこが改訂されたのかわかりやすい。

(西田生涯学習部長)

全面改訂みたいなものなので、対比は難しいかと。

(本川議長)

でも、まとまってよかった。

(西田生涯学習部長)

ただ、大きくどこが変わったかというのは、もうちょっと整理して、また機会があったら説明する。

(中村委員)

図書館の中で図書点検をされた結果、1,450冊が不明と教えていただいたが、それはトレースはできないのか。例えば、貸出者がどの本を借りたというのは記録に残っていると思われるが。

(上石図書館長補佐)

貸し出しされてないものということで、棚にないものである。ということは、言葉が悪いが、手続をとらずに外に持ち出したという。

(西田生涯学習部長)

つまり、何らかの理由でなくなってしまったと言ったほうが早い。

(中村委員)

その場合、例えば、スーパーだと、精算してないと音が鳴ったりするが、そういう対策というのはないのか。

(上石図書館長補佐)

うちでは今、まだバーコードで管理をしており、ICタグとかゲートをつくるとか、そういったことができていないので、図書館のカウンターから見えないところが図書館にはたくさんあるので、そういうところから外に出てしまうということがあるので防げない。

(西田生涯学習部長)

普通のお店とかCDショップとか本屋とかだと、いわゆるICタグみたいのをつけていて、ゲートをくぐるとビービー音が鳴って、精算が済んでないのに持ち出しているのがわかるが、かなり金額がかかる。今の状況だと、先ほど言った危機的な財政状況という中では、早急にそういうシステムをつくっていくというのは難しい状況である。

(佐野委員)

贈呈運動みたいのを市民の方に、図書館の充実を図るときに、蔵書を増やすという形になるかと思うが、市民の方に贈呈運動みたいのを展開するという考えは……。というのは、要するに、予算で本を買い入れるというだけではなくして、市民の人に図書館を充実させるために、贈呈みたいな運動を広めていくというような考えはないのか。

(上石図書館長補佐)

図書館、今、蔵書が満杯で、書棚が足りない状況なので、年に2万冊買って

るとすると、もう2万冊を捨てなくては、廃棄というか、しなくてはいけない状況なので、図書館でいうと寄贈という言葉になると思うが、今、寄贈は地域資料に限定させていただいて、小金井市図書館だから、小金井の方の書いたものとか、例えば、小金井桜とか野川とか、そういった地域に根ざした資料というのは、ほかの図書館では集めることができない。小金井市だけでしかそれは集めることができない。言いかえれば、小金井の図書館、それは市民で集めることになる。そういった資料は喜んでいただきたいが、ほかの資料に関しては、今、書庫が満杯なので、利用者の方、市民の方から電話をいただくが、申しわけない、気持ちだけいただくような状況である。

(佐野委員)

2万冊購入されて、2万冊を処分するという形か。

(上石図書館長補佐)

はい。

(佐野委員)

そうすると、東日本の大震災で、いろいろ被害を受けたところに、それを差し上げるとか、そういうあれはやられているのか。

(上石図書館長補佐)

図書館の中では、そういった動きが各市あった。ただ、受け入れ先とか、やはりもらった先で、図書を受け入れるだけのボランティアが存在しないこともあり、やっている市もあったし、図書館界としても、そういった動きは確かにあり、成功した例もあるが、小金井図書館では、そこまではしていなかった。

2万冊捨てる捨て方だが、本館でいうと1階の入り口のところに、「ご自由にお持ちください」といったリサイクル図書コーナーというのがあり、そちらに、バーコードの上にシールを張って、再利用図書ということで展示しているので、来られた方が好きなように持っていかれるということと、あとは、児童書だと、学校や保育園、幼稚園とかに声かけして、年1回、別館を使い、展示をして、やはり持って行ってもらうということをやっている。

あと、緑分室、東分室においては、センター祭りのときに、リサイクル祭りということで、場所をもらい、2日ないし3日間配布というか、リサイクル図書、どうぞご自由にとということで配布している。

そういうふうやって、残ってしまったものは、分別、資源ごみになってしまうが、そういうふう、最後まで一応、税金の還元ということで、「捨てる」という言葉が悪いが、再利用していただいているようなことで、2万冊買ったら2万冊をそういうふうしなければ、図書館も満杯なので、そのようになっている。

(佐野委員)

新聞に、仮設住宅にそういう図書を、NPO法人でやっているそうだが、その

方たちが本に親しむことができるという記事が載っていて、そのときに、管理はきちっとやってくださいとNPO法人に言われたという。差し上げるだけじゃなくて、管理をやってくださいというのが書いてあったので、これは大変だなと思ったが。

(本多委員)

今、地域のお祭りのときに、3日間、そういうコーナーをつくっているということをお聞きして、私は、子育てのときの捨てがたい本がある。それを3日間だけ置かせてもらって、そのとき残っていたら自分で持って帰る、そういうのはどうなのか。やはり本って、皆さんがいいと思うものを、世代が違ったときに、意外と、おばあちゃんの時代でよかったなという本もある。そういう意味で、そんなのも働きかけたらどうかなと感じた。

(伊藤副議長)

本来の図書館事業と関係ない話だが、ちょっと神経質になっているのかもしれないが、蔵書を貸し出す。いろんな方が手に触れる。場合によっては、なめて、こうやる方もいる。そういった殺菌方法というか、どう処理しているのか。借りた人が、自分のところはやるでしょう。図書館として、蔵書を陳列して、貸し出ししているか、何か、そういう対策を講じておられるのか。今、電車のつり革まで、抗菌でできているなんて、わざわざ銘打って書いている。そんな時代だから、ちょっと神経質になり過ぎかもしれないが、図書館だけの問題じゃなくて、どうなのかなと。ちょっと伺えるか。

(上石図書館長補佐)

図書館では、汚れがひどいものに関しては、利用者の方に、こういうことはしないでくださいというような声かけをする。汚れているものに関して、名前がわからないが、抗菌剤、消臭、そういった専用の液体があるので、それでふくと、べたべただったりとか、そういったものは落ちるが、全ての図書にやっているということではなくて、目立ったものはそうしている。

あと、数年前、何年前か忘れてしまったが、緊急雇用で図書の清掃ということで入っていただき、閉架書庫の本とか1階の本とかというのを特別にやったこともあるが、やはりお金がかかるものなので、緊急雇用対策だったと思うが、2回ぐらいやっただけである。以上である。

(本川議長)

図書を入れて、殺菌、におい、消臭ができる機械があるのを新聞で見た。

(西田生涯学習部長)

図書館は新聞もあるので、調べてみる。

(本川議長)

やっぱり1,450冊不明というのは、1カ月に100冊ぐらいずつなくなって

いることである。いろんなことをお考えいただいて、そういうことがなるべく少なくなるような形をお考えいただけるといいかなと私は感じた。それでは、図書館については以上。ほかに何かあるか。

(尾崎国体推進担当課長)

国体関係、2点だけ報告させていただく。

いよいよ今年9月末から国体開催ということで、今回、大会運営をお手伝いしていただける市民ボランティアの募集を、皆さんと一緒に国体を盛り上げましょうということで、4月1日から募集をしている。条件としては、大会運営に積極的に協力していただける方で、小金井市に在住、在勤、在学の個人または団体・グループ。18歳未満の方は、保護者の同意が必要。1次募集として、5月15日まで、開催日1日当たり100名程度を募集している。

1枚めくってもらい、ボランティアの活動内容だが、①から⑧までのような内容で、希望に沿った形で参加してくださいという形で募集をかけているところである。この方々には、報酬、交通費等は出せないが、識別の服飾、お弁当等は支給するほか、保険も加入することを考えている。

現在、4月15日号の市報、ホームページも載せたが、五、六人の申込を今いただいているような状況である。少しずつ動き始めているなという感じである。また、1次募集で集まらなかった場合については、2次、3次という形で、広く募集をかけたいと考えている。皆様にも関係する団体等に声をかけてもらい、できるだけ多くの方に参加いただけるように声をかけてもらえればと思う。

次に、「企業・団体の皆様へ 協賛のお願い」ということで、こちらも4月より開始している。協賛をお願いする物品例として、啓発用物品、のぼり旗、うちわ、資料袋。その他、市民運動用の物品として、プランターとか花の種、軍手といったもの。あと、大会スタッフ用服飾品として、スタッフジャンパー、帽子等。チラシに書いてあるような物品の協賛をお願いしているということである。

現在、市民ボランティアと協賛のお願いについては、体育協会の各加盟団体と、小金井市教育委員会に登録している社会教育関係団体を合わせて、約100団体ぐらいあるが、そちらに通知等を差し上げて依頼をかけているところである。今後については、商工会とか商店街等、企業もあるので、そういったところにも、ぜひ個別に働きかけをしていきたいと考えている。私からは以上である。

(西田生涯学習部長)

補足だが、今、働き盛りの方にとってみたら、多分、この国体、最初で最後になると思うので、一生の思い出という形で、ぜひ協力をいただきたいということで、ご自身含めてと言ったら申しわけないが、関係団体等に働きかけをしていただければありがたいと思っているので、次の機会は多分ないと思うので、よろしくをお願いする。五十数年に1回とか50年に1回という話なので。

(本川議長)

ありがとう。何か質問あるか。

(小林委員)

図書館協議会が平成24年度最後が3月28日木曜日、午前10時から12時、図書館別館の学習室であった。内容については、先ほど話が出ていた小金井市図書館運営方針改訂案の説明を受け、検討して、全て、それにて終了したということになる。25年度については、来週、4月26日から第1回が始まり、7回の予定と伺っているので、また随時、報告させていただく。以上である。

(樹委員)

放課後子どもプラン運営委員会が3月21日、平成24年第4回目、最終回として開催されたので、報告させていただく。平成24年度の放課後子ども教室については、どの学校も無事に終了したという報告がコーディネーターからあった。平成25年度の放課後子ども教室について少し変更があるということで話があったが、1校1コーディネーター制というのを主としてずっと目指してきたが、今までは3人のコーディネーターさんが3校ずつを見るという体制でやってきたが、平成25年度から各学校の実行委員長がコーディネーターを兼ねるということで、一応、学校によって、実行委員長がそのまま兼ねるかどうかなどというのは任されているようだが、各学校に1人ずつコーディネーターがつくという体制をつくっていくことになった。なので、次回からは、今年度からは、運営委員会にも、各学校の実行委員長兼コーディネーターという方が来て、現場の声が運営委員会に反映していくという形がつかれるようになったということで、尾崎課長の時代からずっと目指してきた1つ、新しい、また、ほんとうにいい形ができていくのではないかなと思い、とても期待のできるというか、そういう感じがした。ただ、学校においては、1世代が終わって、次のリーダーを探していかなければいけないという学校もあるようで、そういう方たちが、ほんとうに跡を継いでやっていくということも大事だと思う。でも、各学校の実行委員長が1つの場に集まることができるということで、情報交換等もできて、それぞれに啓発されながら、よりよい放課後子ども教室が運営されていくのではないかなということで、大変期待の持てる形になったと思っている。

今年度、まだ連絡は受けてないが、引き続き25年度もさせていただくので、また何かあったら、報告させていただく。以上である。

(伊藤副議長)

実行委員の数というのは、各校で異なるのか。

(樹委員)

各校ばらばらである。

(伊藤副議長)

ばらばらか。多いところもあれば、少ないところもあると。

(樹委員)

はい。

(伊藤副議長)

ありがとう。

(本川議長)

樹さんについては、皆様の了解を得て、次年度も社会教育委員からの出向という形で推薦をさせていただいた。

(樹委員)

よろしく願います。

(天野生涯学習課長)

1点だけ、補足で。樹委員が参加された会議というのは平成24年度だったので、実行委員会という名前を使っていたが、実は今までも、小金井市の実行委員会と各学校ごとの実行委員会というのがあり、非常に紛らわしいということで、平成25年度から、各学校については推進委員会ということで名称だけ変更している。実態としては変わらないが。

(本川議長)

ありがとう。ほかに報告はあるか。

(天野生涯学習課長)

次回の日程だけ申し上げる。次回の社会教育委員の会議は、5月15日水曜日、今度は9時半スタートである。会場は、同じく801会議室ということになるので、よろしく願います。以上である。

(本川議長)

では、第1回の社会教育委員の会議を閉じさせていただく。ありがとう。

以上

